令和4年度（2022年度）第1回公立高等学校配置計画地域別検討協議会における主な意見及び道教委の考え方

北海道教育庁学校教育局高校教育課

1　開催方法の変更について

・ 新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、Web開催（Zoom会議）として開催しました。
（参加者は個人又は所属の端末から出席）

2 参加者数一覧

会場（学区）	参加者										計 E (A+B+C+D)	傍聴者 F	報道関係者 G	合　計 H(E+F+G)	アンケート提出者
	行政関係者 A	学校関係者			計 B	PTA関係者			計 C	経済団体関係者 D					
		小学校	中学校	高等学校		小学校	中学校	高等学校							
空知南	11	5	8	12	25	1	1	7	9	1	**46**	9	3	58	10
空知北	15	9	12	8	29	2	4	2	8	2	**54**	13	2	69	10
石狩	9	0	16	44	60	1	7	3	11	1	**81**	3	1	85	16
後志	24	18	19	18	55	6	10	11	27	4	**110**	3	0	113	22
胆振西	6	5	6	12	23	2	2	4	8	0	**37**	2	1	40	12
胆振東	5	4	5	14	23	0	1	2	3	2	**33**	2	1	36	4
日高	7	5	6	7	18	1	0	2	3	2	**30**	2	3	35	9
渡島	12	11	11	23	45	1	1	3	5	0	**62**	11	2	75	14
檜山	7	7	6	4	17	1	0	2	3	1	**28**	3	4	35	9
上川南	16	9	10	22	41	0	1	3	4	1	**62**	5	1	68	18
上川北	11	4	6	7	17	1	0	2	3	0	**31**	5	0	36	8
留萌	16	8	8	5	21	3	7	4	14	3	**54**	2	2	58	10
宗谷	10	10	10	8	28	1	0	1	2	0	**40**	1	2	43	15
オホーツク中	19	6	7	13	26	3	4	8	15	3	**63**	3	2	68	16
オホーツク東	5	1	7	5	13	0	2	0	2	1	**21**	2	0	23	11
オホーツク西	11	5	8	5	18	3	3	2	8	3	**40**	1	0	41	13
十勝	25	19	19	16	54	11	15	3	29	2	**110**	9	2	121	28
釧路	9	6	7	15	28	5	3	5	13	3	**53**	15	3	71	11
根室	6	5	5	5	15	2	1	3	6	2	**29**	4	0	33	9
合　計	224	137	176	243	556	44	62	67	173	31	**984**	95	29	1,108	245

令和4年度（2022年度）第1回公立高等学校配置計画地域別検討協議会 開催日程一覧

全ての学区で、Zoomアプリを用いたWeb会議として開催

学区	開催日	開催時間
空知南	令和４年（2022年）４月18日（月）	10時30分 ～ 12時00分
空知北	令和４年（2022年）４月15日（金）	13時15分 ～ 14時45分
石　狩	令和４年（2022年）４月21日（木）	10時00分 ～ 11時30分
後　志	令和４年（2022年）４月26日（火）	10時00分 ～ 11時30分
胆振西	令和４年（2022年）４月18日（月）	10時00分 ～ 11時30分
胆振東	令和４年（2022年）４月18日（月）	13時30分 ～ 15時00分
日　高	令和４年（2022年）４月21日（木）	13時30分 ～ 15時00分
渡　島	令和４年（2022年）４月19日（火）	15時00分 ～ 16時30分
檜　山	令和４年（2022年）４月25日（月）	10時30分 ～ 12時00分
上川南	令和４年（2022年）４月28日（木）	10時00分 ～ 11時30分
上川北	令和４年（2022年）４月28日（木）	13時30分 ～ 15時00分
留　萌	令和４年（2022年）４月25日（月）	15時30分 ～ 17時00分
宗　谷	令和４年（2022年）４月20日（水）	10時30分 ～ 12時00分
ｵﾎｰﾂｸ中	令和４年（2022年）４月27日（水）	13時30分 ～ 15時00分
ｵﾎｰﾂｸ東	令和４年（2022年）４月28日（木）	10時00分 ～ 11時30分
ｵﾎｰﾂｸ西	令和４年（2022年）４月28日（木）	13時00分 ～ 14時30分
十　勝	令和４年（2022年）４月26日（火）	13時30分 ～ 15時00分
釧　路	令和４年（2022年）４月19日（火）	13時30分 ～ 15時00分
根　室	令和４年（2022年）４月27日（水）	10時00分 ～ 11時30分

主な意見及び道教委の考え方

■ 高校教育全体の充実	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
①　高校は、地域にとって本当に重要な役割を果たす。小・中学生の保護者や、近隣の市町村を巻き込んで連携する組織を整備するということが必要だと感じている。	○　地域の発展に主体的に参画できる人材を育成する視点に立って、確かな学力や社会的・職業的自立に向けた資質・能力を育成できるよう、地域の人材や自然、産業などの教育資源を取り入れた教育活動を行うなど、地域の特性を生かした活力と魅力のある高校づくりに取り組みます。 ○　各高校においても、地元市町村や企業等と連携し、地域課題の解決等に取り組む学習活動を推進するなど、生徒や保護者にとっても一層魅力ある高校づくりに努めます。 ○　また、地域の参画・協力を促進することは、学校運営の改善につながるとともに、学校の魅力化や特色づくりにも資するものと考えており、道立高校においてもコミュニティ・スクールの導入などを進めています。 ○　さらに道教委では、令和３年度から、地域の課題解決に取り組む「北海道 CLASS プロジェクト」を通して、地域の担い手となることができる人材の育成に取り組んでおり、今後はその成果の普及に努めます。 ○　国において令和３年１月に出された中央教育審議会答申で、新時代に対応した高等学校教育の在り方について示されたところであり、道教委としても、国の動向を注視しながら、高校の魅力づくりについて更に検討を進めます。
②　高校が地域に果たす役割、地域創生の観点から特色ある高校づくりができるような柔軟な対応が必要に思われる。	
③　高校は単なる３年間の教育機関だけでなく、小・中学生にとってのキャリア教育の一環であり、地域創生の人材育成の場でもある。それらを踏まえて、中学３年生の選択肢がたくさんあるような施策をお願いする。	
④　地域創生に向けた高校魅力化や多様なタイプの高校の成果、特色ある高校づくりも大切だが、人数が少なくなる中、個に応じた多様な指導に力をいれることも必要と考える。	
⑤　高校の役割と地域の役割の明確化、そして共有部分の認識をすり合わせることが必要だと感じている。	
⑥　これからの社会に対応する人材育成のため、子供たちが生活する地域に関係なく、多様な進路選択ができるよう配慮することが必要だと思う。	

■ 特色ある高校づくりの推進	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
【魅力化の推進】 ①　特色ある教育課程により、地元の高校に魅力を感じる生徒が増えれば、地元への進学率も高まると考える。このことは、地元以外からの生徒募集にもつながる。	○　生徒の多様な学習ニーズに応じて学校を選択できるよう、学校・学科の配置状況等を考慮し、地域の要望も伺いながら、総合学科や単位制などの多様なタイプの高校づくりや地域の特性を生かした魅力ある高校づくりに努めます。 ○　また、令和２年 12 月には、地域創生の観点からも、地域と連携・協働し、生徒から選ばれる魅力ある高校づくりを推進する必要があると考え、「地域創生に向けた高校魅力化の手引～高校と地域の連携・協働を進めるために～」を作成・配布するとともに、令和４年３月には、各高校等における魅力化の取組をさらに推進するため、「取組事例集」を作成しました。 　本道が将来にわたって輝き続けていくためには、より良い学校教育を通じてより良い社会を創るという理念の下、学校と地域が連携を深め、情報を共有するとともに、協働して地域の人材を育成することが
②　学級減、募集停止等が地域に与える影響は大きなものと考える。また、今後の地域産業の担い手の減少等を危惧するところ。人数だけではなく、特色を持った学校運営に期待する。	
③　地元の高校への進学希望者が少ない現状を踏まえ、「特色ある高校づくり」と並行し、「魅力ある町づくり」も進めていく必要がある。また、遠隔授業なども利用できる環境整備も重要。	

④　地域と結びついた特色ある学校づくりはとても有意義な取組だと思う。探究型の学習と組み合わせながら、子どもたちの知的好奇心を育み、地域に発信することによって地域との関わりを深め、達成感や自己効力感なども同時に育てていくことが大切。	できるよう、学校の取組を支援します。
【具体的な取組と課題】 ⑤　地域創生に向けた魅力ある高校づくりには、一層の地域連携が必要である。	○　「地域創生に向けた高校魅力化の手引～高校と地域の連携・協働を進めるために～」においては、「高校の魅力化」を、生徒や学校、地域の実態を踏まえ、地域と連携・協働して、社会の変化や生徒の多様な学習ニーズに対応した教育活動を展開することにより、生徒の自己実現に寄与することができる高校づくりを推進し、生徒から選ばれる学校になることと定義しており、こうした学校づくりに向けた高校の魅力化を推進するため、学校と地域が連携・協働することが重要と考え、高校の取組を支援します。 ○　また、令和３年４月に開設した北海道高等学校遠隔授業配信センター（愛称：T-base（ティーベース））からの遠隔授業の配信等を通して地域連携特例校や離島にある高校の教育課程の充実を図ります。 ○　さらに、令和３年度から実施した、地域の課題解決に取り組む「北海道 CLASS プロジェクト」を通して、地域の担い手となることができる人材の育成に取り組んでおり、今後はその成果の普及に努めます。 ○　令和元年度から３年間実施した「小・中・高等学校英語教育支援事業」において、小中高の教員による乗り入れ授業や互見授業、合同研修など、異校種が連携した授業実践に取り組んできたところであり、今後は高等学校における義務教育段階の学習内容の学び直しの場面に生かすなど、成果の普及に努めます。
⑥　今後の教育の在り方にも関連して、生徒の多様な選択が可能になることも重要。学区の再編や学区外の進学も視野に、生徒が自分の興味や関心をもとに学びたいことが学べるよう、将来に向けて様々な選択ができる環境づくりがますます重要になると考える。	
⑦　総合学科の強みを生かした取組に力を入れてもらいたい。	
⑧　アンビシャススクールに関して、学び直しの観点が重要となることから、中高連携での授業実施等も視野に入れて進めてはいかがか。	
【広報・周知】 ⑨　魅力ある高校側の情報の発信と受け取る中学校や地域とのスムーズな流れをつくることが必要と感じる。	○　多様なタイプの高校を紹介したパンフレット「わたくしの進路」を毎年度作成し、市町村教育委員会や中学校等へ配布するとともに、高校教育課のホームページに掲載しています。 ○　また、多様なタイプの高校の教育内容を紹介したビデオについても同じく高校教育課のホームページに掲載し、順次内容の更新を行っています。 ○　各高校では、ホームページや学校案内などのパンフレットの作成・配布のほか、中学生を対象とした体験入学において、積極的に情報提供を行っています。 注：　道内公立高等学校のホームページは次の URL を参照してください。 http://www.hokkaido-c.ed.jp/kouritsu/index.html
⑩　それぞれの高校において、特色のある高校づくりについて工夫がされているところだが、内容については生徒・保護者に伝わりづらい状況のように感じる。高校と中学校が連携して何か良い策を見つけていくことが大切。	
⑪　子供や保護者のニーズを把握しながら意見交換していくのも必要と思うし、保護者や学生の目線でニーズを把握しながら資料提供してもらえればよい。	

■ 小規模校・地域連携特例校

意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
【教育環境の維持・向上】 ① 小規模校の在り方は、該当校だけではなく、地域の小・中学校の教育課程編成にも影響があることから、慎重に検討いただきたい。	○ 他の高校への通学が困難な地域があり、かつ地元からの進学率が高い第１学年１学級の高校を地域連携特例校とし、北海道高等学校遠隔授業配信センター（愛称：T-base（ティーベース））からの授業配信や、協力校からの出張授業などにより、教育環境の維持向上を図ります。 ○ また、地域連携特例校間での合同授業や生徒会交流等など、遠隔システムを活用した取組を行っているほか、コミュニティ・スクールの導入やコンソーシアムの構築、地域課題探究型の学習活動など、魅力ある高校づくりに取り組んでいるところであり、教育内容の充実に向けて、１学年１学級の高校に対する道単独の教職員の加配を措置しています。
② 小規模校や職業学科のある高校は地域とつながりやすく、地域の教育資源を活用した取組を経験させることができるということを念頭に、地域の特性や実態をしっかり聞き取っていただいて、柔軟な取組とした配置計画をお願いしたい。	
③ 小規模校も特色ある教育を行っており、できる限り地域に高校が存続できることが望ましい。	
【遠隔授業等】 ④ 遠隔授業の拡充などを行い、地元の高校に通っても、その後の進路選択の幅が狭まらないような仕組み作りをもっと充実させる必要がある。	○ 北海道高等学校遠隔授業配信センター（愛称：T-base（ティーベース））は、 ・子供たちが、どの地域においても自らの可能性を最大限伸ばしていくことができる、多様で質の高い教育を提供するため、大学進学等の希望に対応した教科・科目を配信し教育内容の充実を図ること ・小規模校が、魅力化に取り組むことで、子供たちが地元で育ち、地域に愛着と誇りをもってふるさとの発展に貢献していく意欲を育むこと を目的としています。 また、北海道高等学校遠隔授業配信センターと地域連携特例校及び離島の高校を相互に結び、 ・ 複数の高校へ授業を同時配信し、他校の生徒とともに学ぶ合同授業の実施 ・ 大学進学など、同じ目標を持った他校の仲間と切磋琢磨（せっさたくま）した学び ・ 夏季・冬季休業中の進学講習の受講 ・ 全国の最新情報を踏まえた進路指導の支援 を行うなど、教育環境の充実に努めます。 ○ 昨年度までの５年間、対面による授業時数を緩和した遠隔授業の単位認定の在り方等についての研究開発に取り組んでおり、今後は、生徒の理解力に応じた個別支援や授業者と受信側のサポート教員の連携といった課題の改善のほか、遠隔授業に関わる教員の指導力向上のための研修など、遠隔授業の充実に向けた取組を進め、その成果の普及に努めます。
⑤ コロナ禍で進んだデジタル授業化などをさらに進めていき、都市部以外の地域でも質の高い授業、または特定のフィールドに特化した専門的な勉強が出来れば良い。	
⑥ 生徒の多様性を担保するために今進めている遠隔授業をどんどん進めていくべきだと思う。	

■ 高校配置計画の策定

意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
【基本的な考え方】 ① 基本的には、一人でもその高校へ進みたいという生徒がいるかぎり、高校はあるべきだと考えるが、少子化や地理的状況などを鑑みながら、配置を計画していただきたい。	○ 高校配置計画は、高校進学希望者数に見合った定員を確保するとともに、教育水準の維持向上を図る観点から、中学校卒業者数や生徒の進路動向、学校規模、学校・学科の配置状況、欠員の状況などを勘案し、地域の実情などを考慮しながら策定しています。 ○ 中学校卒業者数が減少する中、生徒の実態を踏まえた教育課程を編成し、活力ある教育活動を展開す
② 中学校卒業者数の状況に応じた学科の再編整備を積極的に進め、地域の実情や学校・学科の特性などを考慮していただきたい。	

③　中学校卒業者数が減少する中で高校の再配置や定員調整はやむを得ないと考える。しかし、進学する者にとって多様な選択肢を用意してあげたい。そのためには、各高校による多様な取り組みや特色が必要。	る観点から、再編整備などを含めて高校の配置を検討していますが、本道は広域で、それぞれの地域事情も異なることから、都市部と郡部の違いや地域ごとの特性などを十分考慮した特色ある高校づくりに取り組むとともに、適切な高校配置に努めます。
【策定方法・示し方】 ④　教育関係者をはじめ、地域の方々の意見を聞いていただきながら、配置計画を示してほしい。また、どの地域でも、高校生を目標にしながら、12 年間の連続した教育活動を進めようとしているので、安易に高校をなくすという考えではなく、できればどうにかして残せるような方策を検討していってほしい。	○　配置計画の策定に当たっては、人口減少社会への対応や地域創生の観点から、地域の教育機能を確保するための方策などを示す「これからの高校づくりに関する指針」に基づき、地域ごとの特性や実情、高校に対する地域の期待も十分踏まえるとともに、小学校の校長や保護者にも参加いただいている地域別検討協議会において、地域の方々の御意見を伺うほか、地元の検討の場などにおいても道教委の考え方などを説明し、御意見をいただきながら検討しています。
⑤　中学生が早期に自分の進路を検討していけるよう３年後までを計画するという考え方は理解できるが、早すぎる時期の中学生の進路動向をもとに計画を組むことは難しいと思う。計画を変えるのが難しいことは十分に理解できるが、せめて、途中で修正していける仕組みは必要ではないか。	○　今後とも、今後の中学校卒業者数の状況を踏まえた上で、本道の広域性や地域の実情などを考慮し、地域の方々の御意見を丁寧に伺いながら検討を進めるとともに、関係市町村に対して、配置計画の検討に必要な情報を早期に提供するなど、地域での議論が一層深まるよう努めます。 ○　配置計画を策定した後であっても、急激な中学校卒業者数の増減や生徒の進路動向に大きな変動が生じた場合や、入学者選抜における第２次募集の合格発表後、配置計画で示した募集定員に対し１学級相当以上の欠員が生じた場合などについては、配置計画を変更することとしています。
【再編等（地域の実情等）】 ⑥　北海道山間部のように交通網が発達していない地域では、統廃合が進むということは、同時に家庭への負担が大きくなるということである。実情として地域に学校がない、あるいは入学できないという実態があり、保護者の負担が近年、増大しているという実情を、今後一層、考えて、計画策定をしていただきたい。	○　高校配置の検討に当たっては、広域で地域事情も異なる本道の特性を踏まえ、高校配置が地域に与える影響、高校に対する地域の期待や取組などを含め、地域の実情を十分考慮する必要があると考えています。
⑦　通学における困窮度合いや、その高校が地域にとってどれだけ必要かという実態、そして高校に対する町村の支援状況など地域の人々の思いを十分勘案されて、生徒数など、また単純な数の基準ではない地域で安心して教育が受けられる環境整備に向けた指針の見直しをしていただければと思う。	○　急激な人口減少が進む中、地域の教育機能を維持・向上させることは極めて重要な課題であり、特に郡部においては、交通機関の状況や、自治体に一つの高校しか存在しない場合が多いこと、地理的状況等から再編が困難な場合があることなど、都市部と異なる状況があり、地域ごとの特性や実情を十分に考慮する必要があると考えています。
⑧　町村間の距離が大きく市町村が点在するという北海道の特殊性を鑑みて、できるだけ生徒や保護者の負担にならないような高校の配置を検討していただきたい。また、北海道新幹線開通に伴う在来線の廃止により、高校への通学が困難な地域が発生することが予想される。ＩＣＴの活用等も含めて、生徒が余裕をもって学べる環境の構築をお願いしたい。	○　こうしたことから、再編については、一律に行うのではなく、本道の広域性や地域の実情などを考慮し、地理的条件から再編が困難な場合などには、地域連携特例校として存続を図ることとしています。 ○　今後とも、高校配置計画の策定に当たっては、各年度の中学校卒業者数の状況も踏まえた上で、都市部と郡部の違い、学校・学科の特性、生徒の進路動向、私立高校の配置状況などを勘案するとともに、地域の方々の御意見を丁寧に伺いながら検討を進めます。

⑨　閉校となると少数ではあるが経済的負担や通学時間による活動の制限など生徒やその家族に大きな負担を強いることになる。例えば、分校、遠隔授業を中心とした通信制課程のような学校にするなど、近隣市町村に通学することが厳しい状況の生徒への配慮が必要。	○　さらに、今後、生徒数の減少等により、高校が所在しない市町村の増加も予想されることから、地元市町村と連携し、生徒の修学機会を確保するためにＩＣＴを活用するなど新しい学びのスタイルについても検討する必要があると考えています。 ○　今後、生徒の通学可能圏内にある市町村とともに、高校の魅力化や配置について考える場を設定することも検討する必要があると考えています。
⑩　少子化で中学校卒業者数が減るのは必然で、すでに分かっていること。地元からの学区外進学を減らす、他地域からの進学を目指せるような特性のある学校を作る、この２点について具体的な方法を議論する場を設けるべきである。	
【再編等（小規模校の役割）】 ⑪　少子化が進む中、高等学校配置計画により高等学校も学級減や再編が進む状況であるからこそ、特色ある高校づくりを推進し、生徒の多様な進路選択に対応できるシステムを作ることが重要である。	○　小規模校は、きめ細かな指導や地域と連携した取組など、特色ある教育活動を展開している一方で、教員が少ないことから、生徒の多様な学習ニーズに対応した教育課程の編成や部活動に制約があることや、生徒同士が切磋琢磨する機会に乏しいといった課題もあると考えています。こうした中、高校は、生徒や地域の実情などに応じて、特色ある教育活動を行うとともに、文化・スポーツ活動といった生涯学習の場として役割を担っており、地域の教育機能を確保することは重要であると考えています。 ○　中学校卒業者数の減少が引き続く中、高校の教育環境を整え、生徒の進路実現を図っていくためには、高校は一定の規模を有することが望ましく、今後も定員調整はやむを得ない面もありますが、再編整備を進めるに当たっては一律に行うのではなく、本道の広域性や地域の実情なども考慮し、小規模校であっても、地理的条件などから再編が困難な場合には、地域連携特例校として存続を図ることとしています。 ○　「これからの高校づくりに関する指針」において、人口減少社会への対応や地域創生の観点から、地域連携特例校などに係る再編基準を緩和したところであり、道教委としては、遠隔システムによる教育環境の整備や、市町村教育委員会・地元企業等との連携・協働による特色ある教育活動などを通して、一層魅力のある高校となるよう、きめ細かな支援に努めます。 ○　今後とも、将来の本道や地域の発展に寄与することができる人材の育成に向け、地域の方々の御意見などを十分伺いながら、適切な高校配置に努めます。
⑫　地域にとっての高校の存在は、学習の中心だけでなく、将来的な人員の確保についても重要なことと思われる。予算面など厳しい状況があるのかもしれないが、小規模であっても存続させることが望ましいと考える。	
⑬　郡部の高校では地元以外の高校へ通うのが困難であったり、経済的な事情を抱えている方も存在するので、頭ごなしに再編を進めず、地元自治体にも大きく関わることなので、慎重に今後の中学校卒業者数の状況などを勘案してほしい。	
⑭　小規模でも、地元に高校があることが、地域にとっても、子供にとってもよいと思う。	
【私学・高専との関係】 ⑮　今後も、中学校卒業者数の市外流出を防ぐためにも、私学に配慮した公立高校の学科の配置を検討していただきたい。	○　配置計画の策定に当たっては、地域別検討協議会で私学関係者からも御意見を伺うとともに、私立・公立高校関係者と道及び道教委による「北海道公私立高等学校協議会」を設置し、中学校卒業者数を踏まえた公私双方の入学定員の考え方などについて協議しています。 ○　公立高校の配置に当たっては、いわゆる高校標準法において、私立高校等の配置状況を十分考慮しなければならないとされていることから、私学所在学
⑯　公立・私立・高専、多様な進学先の確保に向けて、持続可能でバランスのとれた配置をお願いする。	

	区ごとの私立高校の配置状況に配慮し、中学校卒業者数の状況に応じた一定の比率に基づく定員調整を行っています。 ○　国立高等専門学校の定員調整については、公私立高等学校協議会として、（独法）国立高等専門学校機構に対し、毎年、文書で定員の遵守や定員調整について要望を行っています。 ○　今後とも、私立高校などの関係者と十分協議しながら、適切な定員調整となるよう努めます。
【学級定員の引き下げ】 ⑰　適正規模の在り方について本道の広域性をとらえ、1 学級 35 名など、柔軟に対応していただけることを希望する。	○　学級編制に係る国の定数改善が行われていない状況から、本道独自の少人数学級の導入は、現段階では難しいものと考えており、国に対し引き続き定数改善を要望していきます。 ○　これまでも、１学年１学級の道立高校に対する独自加配のほか、国の加配定数を活用した様々な加配を行っており、今後も、個に応じた指導の充実や新たな教育課題に対応するための定数措置の拡充について、国に対し引き続き要望していきます。
⑱　今後も中学校卒業者数の減少が続くことを考えると、高校教育の維持向上に向けて、教育環境の充実、あるいはＩＣＴ機器を活用した教育の質を高めるためにも、高校においても 40 人学級から 30 人或いは 35 人学級で学級を維持することが望ましいのではないか。	
⑲　高校においても、少人数学級（35 人程度の）を導入し、真の学びの環境づくりを推進していく必要がある。	
【望ましい学校規模】 ⑳　ある程度の学校の規模を維持し、教職員の人数を確保した上で、生徒の選択できる教科・科目を増やしたり部活動の数や活動を維持したり学校祭や体育祭といった行事でクラス対抗として盛り上げたりできるようになど、特に都市部及び周辺では学校の再編・統合を考えてもよいのではないかと思う。小規模校の良さを認めつつも、間口減による教職員や生徒の減少によって学校の教育活動の幅が狭まってしまうのは事実。	○　小規模校は、きめ細かな指導や地域と連携した取組など、特色ある教育活動を展開している一方で、教員が少ないことから、生徒の多様な学習ニーズに対応した教育課程の編成や部活動に制約があることや、生徒同士が切磋琢磨する機会に乏しいといった課題もあると考えています。 　このため、学校規模については、 ・生徒の学習ニーズに応える多様で柔軟な教育課程が編成できる ・多様な個性を持つ生徒と出会うことにより、お互いに切磋琢磨する機会が得られる ・より多くの教職員の指導により、多様な見方や考え方が学べる ・生徒会活動や部活動が活性化し充実する などの考え方から、複数校が所在する都市部などにおいては可能な限り１学年４～８学級の望ましい規模を維持できるよう、再編整備を進めています。 ○　再編整備を進めるに当たっては、一律に行うのではなく、本道の広域性や地域の実情なども考慮し、小規模校であっても、地理的条件などから再編が困難な場合には、地域連携特例校として存続を図ることとしています。
㉑　学校の適正規模の話があったが、地域の広がりや生徒の数を考えると、すべての地域で当てはまることではないと感じた。地域にある小規模の高校の存続が必要である。	

■ 職業学科の充実	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
【職業学科の配置の在り方】 ①　生徒にとって、多様な選択肢があることは必要。特に職業高校でなければ学べないものが多くあり、学級減はより慎重にと考える。	○　職業学科においては、専門分野の基礎的・基本的な知識・技能をはじめ、より実践的な技術を習得させるとともに、大学や研究機関、地元企業などと連携し、商品開発やものづくりに取り組むなど、実践的な教育活動を通して本道の産業を支える人材を育成しています。 ○　生徒の多様な学習ニーズに対応するとともに、地域産業との関わりなど、地域の特性を生かした魅力ある高校づくりを進め、本道の持続的な発展に寄与する人材を育成できるよう、地域の方々の要望等を十分に伺いながら、社会の変化に対応した学科構成等について検討します。
②　職業高校は中学校へのアプローチを増やして選択の幅を広げてもらう必要がある。	
③　地域性や地元と高校との関係性を考慮し、地元の職業高校で学んだ技術を地元に還元できるそんな配置計画を策定していただければと思う。	

■ その他	
意見又はアンケートの概要	道教委の考え方
【地域への説明等】 ①　今後も引き続き、学校や行政機関だけでなく、保護者等の意見・意向を踏まえた計画を策定していただきたい。	○　高校配置計画の策定に当たっては、各通学区域において、計画案の策定前と策定後の２回にわたり、地域別検討協議会を開催しています。 ○　地域別検討協議会では、地域の様々な立場の方から御意見を伺うことや、保護者や学校関係者に早い段階から高校の配置について理解いただくことが重要であると考え、小学校の校長、ＰＴＡや経済団体関係者にも参加いただいています。 ○　また、地域から要望があった場合などは、地元主催の説明会にも出席するなどして、より多くの方々から地域ごとの課題や配置計画に関して御意見を伺い、地域の実情等を十分考慮しながら、適切な高校配置となるよう努めています。
②　再編統合による定員減少や募集停止などは一つの学校にはおさまらず、近隣の学校へも影響が及ぶ事が懸念されるため、該当する学校も含め、近隣の学校関係者との意見交換などを行い、地域の実情を加味して、これらの検証、検討をしていただきたい。	
③　地域ごとの課題解決の為、地域ごと等の会議の開催を要望する。	
【地域別検討協議会】 ④　学校は、コロナ等でどんな緊急事態が起きるか分からないので、出来るだけ学校を空けたくないことから、Ｗｅｂ開催を希望。	○　第１回地域別検討協議会については、新型コロナウイルス感染症拡大の防止等の観点から、全道 19 学区で Web（Zoom）による開催としました。 　配付資料は Web ページ上での掲載とし、意見については、電子申請システムを活用し、取りまとめました。 ○　今後も開催日時や場所の見直しのほか、運営方法や資料内容などについて、いただいた御意見なども参考にしながら、地域別検討協議会の工夫・改善に努めます。
⑤　対面の方が、議論が行いやすいが、感染対策や日時の調整は ZOOM の方が行いやすい。双方のメリットから選択できるとより参加しやすいのではないか。	